

構図作りのおさらい

構図

考え方

1. 自分のイメージを実現していくために
2. 構図 (Composition) という名の抽象画
3. 絵画の構図：画面の組立ての例
4. 東洋画の構図：余白
5. 静的な構図と動的な構図
6. 平面に立体感を実現していく遠近法

1

1. 自分のイメージを実現していくために：


1つの統一ある世界を組み立てる。これが構図作り

- 同じ花でも人により関心や感覚・感じ方が違うので、もの見方が異なる。
- もの見方に従い、何を描くか、何を描かないかを決める。
- どう配置するか
- どこを強調するかを
- 全体のバランス、色彩、遠近、明暗の表現で決めていく。

2

2. 構図 (Composition) という名の抽象画

Piet Mondrian



- Founder of De Stijl Art Movement, Began in Netherlands
- Abstraction that is painted in a grid like fashion.
- Much use of primary colors. Very simple

ユートピアを目指したデ・ステイル造形運動

- De Stijl: オランダ語で「スタイル」の意味
- 第一次世界大戦の混沌の中、「秩序への回帰」を掲げて生まれた芸術活動。
- 戦前の芸術の装飾的な傾向を否定。
- あらゆる対象を幾何学的形式で描くキュビズムを新たな芸術スタイルとして提唱。
- 最も基本的なデザイン要素である垂直、平行の直線、原色のみで表現する完全な抽象芸術を目指した。
- この造形理念は芸術美を持ちながらも社会に影響した。

3

3. 絵画の構図：画面の組立ての例

- 絵画とは、制約された平面に現実とは異なる空間を設定すること。
- 作者が抱いたイメージにより、モチーフの形や配置を変えたり、遠近や明暗を変えながら画面を組立て、
- 現実とは別な秩序を持つ世界を創り出す。



4

4. 東洋画の構図：余白

- 印象画の初期の作品。
- 余白がイメージを醸し出す。
- 浮世絵の影響といわれる。



5

5. 静的な構図と動的な構図：




マザッチオ、《貢ぎの銭》、1425-1427年頃、255×598cm、フレスコ、

6

静的な構図と動的な構図：同じ花でも人の感じ方で様々

動的



静的：規則正しい、整列
回転感が少ない



7

6. 平面に立体感を実現していく遠近法

- 遠いものと近いものの関係の表現
- 遠近の違いをはっきりさせる6つの技法

- ① 1点投光：重なりによる遠近表現
- ② 大小による遠近表現
- ③ 心理的な遠近表現：空気遠近法
- ④ 上下による遠近表現
- ⑤ 色価による遠近表現
- ⑥ 線による遠近表現



8

平面に立体感を実現していく遠近法

① 1点投光を強く意識します



9

平面に立体感を実現していく遠近法

① 1点投光のもとでの陰を付ける。
・モノクロ化すると陰が見やすい。



10

平面に立体感を実現していく遠近法

① 重なりによる遠近表現：奥にある物は前の物の陰に隠れる
・ 1点投光



11

平面に空間を実現していくテクニック：遠近法

② 大小による遠近表現：小さな富士山が遠近感を作る。



12

平面に空間を実現していくテクニック：遠近法

② 大小による遠近表現
・ 奥の花を小さめにする。



13

平面に空間を実現していくテクニック：遠近法

心理的な遠近表現：③ 空気遠近法

・ 遠くの山は青く見える



14

平面に空間を実現していくテクニック：遠近法

・ 心理的な遠近表現：③ 空気遠近法



15

平面に空間を実現していくテクニック：遠近法

・ 心理的な遠近表現：③ 空気遠近法

・ 薄い色の花・茎奥に見える。
・ 前景、中景、遠景で濃淡を変える。



16

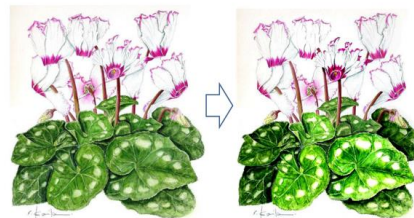
平面に空間を実現していくテクニック：遠近法
④ 上下による遠近表現：俯瞰法



17

平面に空間を実現していくテクニック：遠近法
⑤ 色価による遠近表現

• 色価による遠近表現：



18

⑤ 色価による遠近表現

Beforeの視線の動き

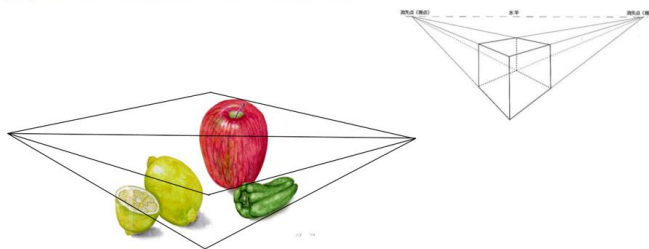
Afterの視線の動き：最前面の花の彩度を高くした。



19

平面に空間を実現していくテクニック：遠近法
⑥ 線による遠近表現：2点透視

【2点透視】



20